



2026年10月期 第1四半期決算説明資料

株式会社オハラ(証券コード:5218)

Mar.13th.2026

2026年10月期 1Q決算の概況

連結

売上高 7,175 百万円
(前期比+4.4%)

営業利益 329 百万円
(前期比△36.2%)

光事業

売上高 4,130 百万円
(前期比+15.2%)

営業利益 35 百万円
(前期は△210 百万円)

エレクトロニクス事業

売上高 3,044 百万円
(前期比△7.4%)

営業利益 293 百万円
(前期比△59.6%)

- 光事業はデジタルカメラ市場における光学プレス品の堅調な需要に伴った増収影響と、適正利益の確保に向けた活動を行ったことから損失改善
- エレクトロニクス事業は低誘電ガラス事業の売上が増加したものの、半導体露光装置向け製品の在庫調整が継続したことから減収、減益

2026年10月期 業績見通し

連結

売上高 29,900 百万円
(前期比3.5%)

営業利益 1,600 百万円
(前期比△10.8%)

光事業

売上高 16,300 百万円
(前期比+6.5%)

営業利益 △300 百万円
(前期は△799 百万円)

エレクトロニクス事業

売上高 13,600 百万円
(前期比+0.1%)

営業利益 1,900 百万円
(前期比△26.7%)

- 業績見通しについては、上期・通期ともに修正。詳細は11ページ以降に記載



CONTENTS

1 2026年10月期 1Q決算の概況

- 業績サマリー
- 光事業①
- 光事業②
- エレクトロニクス事業①
- エレクトロニクス事業②

2 2026年10月期 業績見通し

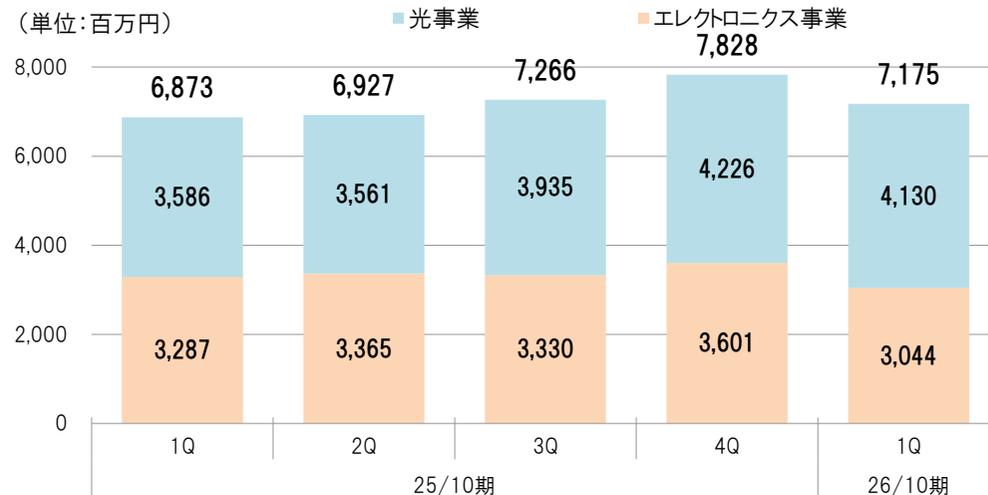
- 26/10期業績予想修正まとめ
- 上期見通しサマリー
- 通期見通しサマリー
- 光事業見通し
- エレクトロニクス事業見通し
- 設備投資、減価償却費、研究開発費

2026年10月期 1Q決算の概況

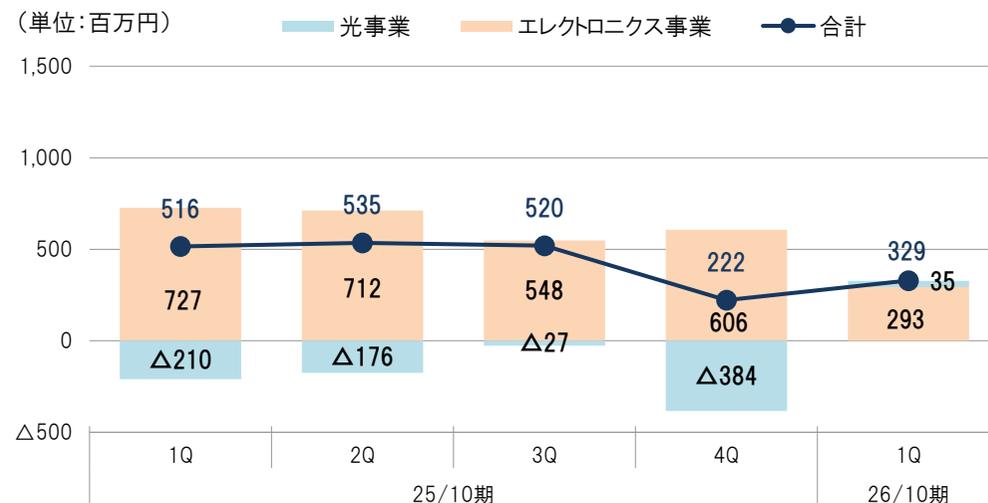
(単位:百万円、%)

	25/10期 1Q	26/10期 1Q	増減 増減率
売上高	6,873	7,175	301 4.4%
営業利益	516	329	△186
[営業利益率]	7.5%	4.6%	△36.2%
経常利益	605	454	△151
[経常利益率]	8.8%	6.3%	△25.0%
純利益 (親会社株主に帰属)	305	338	33
[純利益率]	4.4%	4.7%	10.9%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 154.68 162.22	期中平均 155.99 182.06	

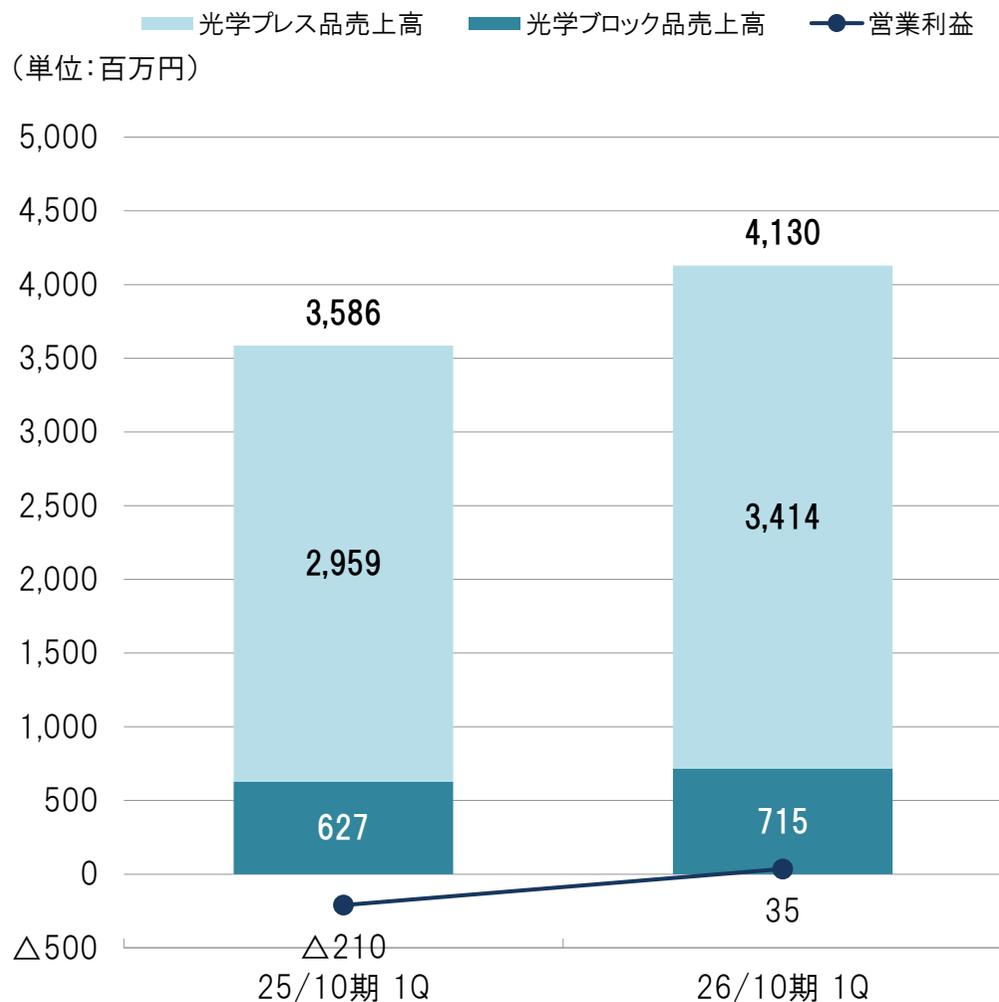
売上高四半期推移



営業利益四半期推移



1Q対比

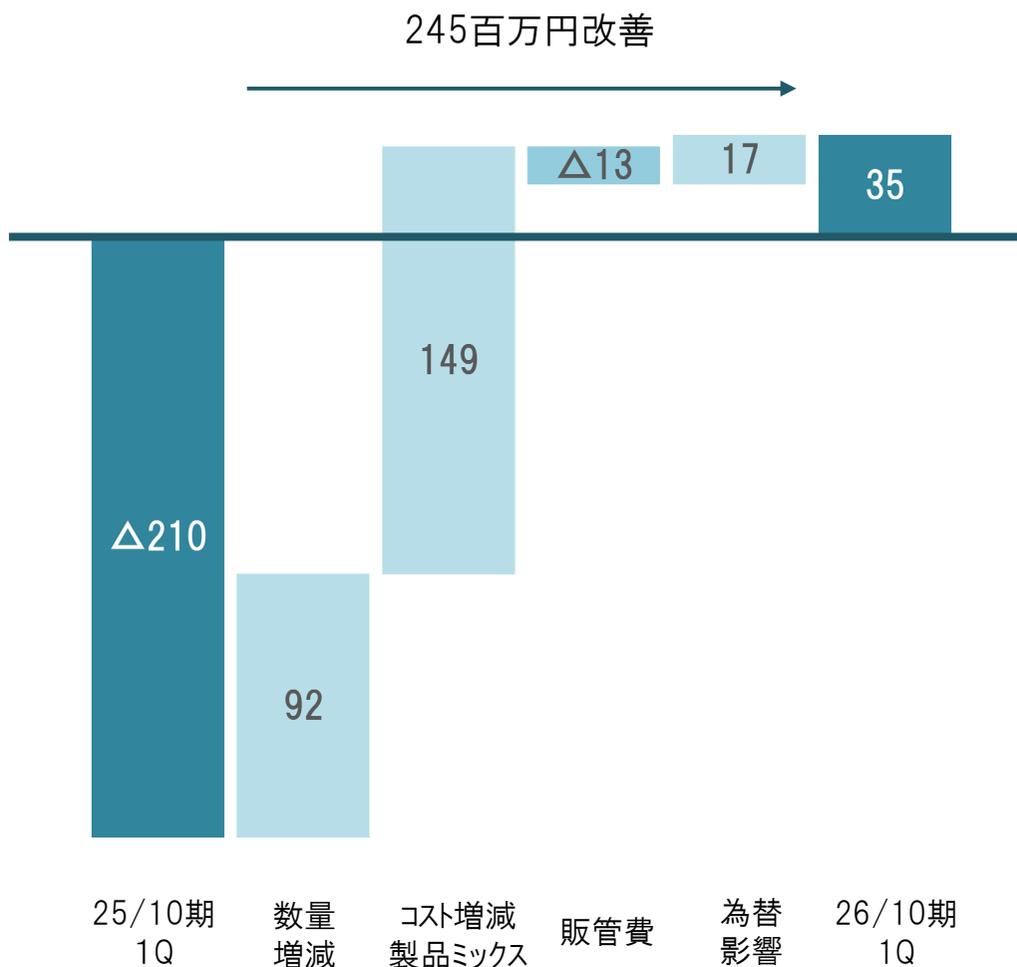


業績のポイント

- 売上高は4,130百万円
(前年同期比15.2%増)
- 営業利益は35百万円
(前年同期は210百万円の営業損失)
- 光学プレス品は、デジタルカメラ市場向け製品の需要が堅調に推移し、高単価な川下製品の売上が増加

営業損益増減要因

(単位:百万円)



業績のポイント

【数量増減】+92

- 光学プレス品を中心に日本・アジア向け売上が増加したため改善

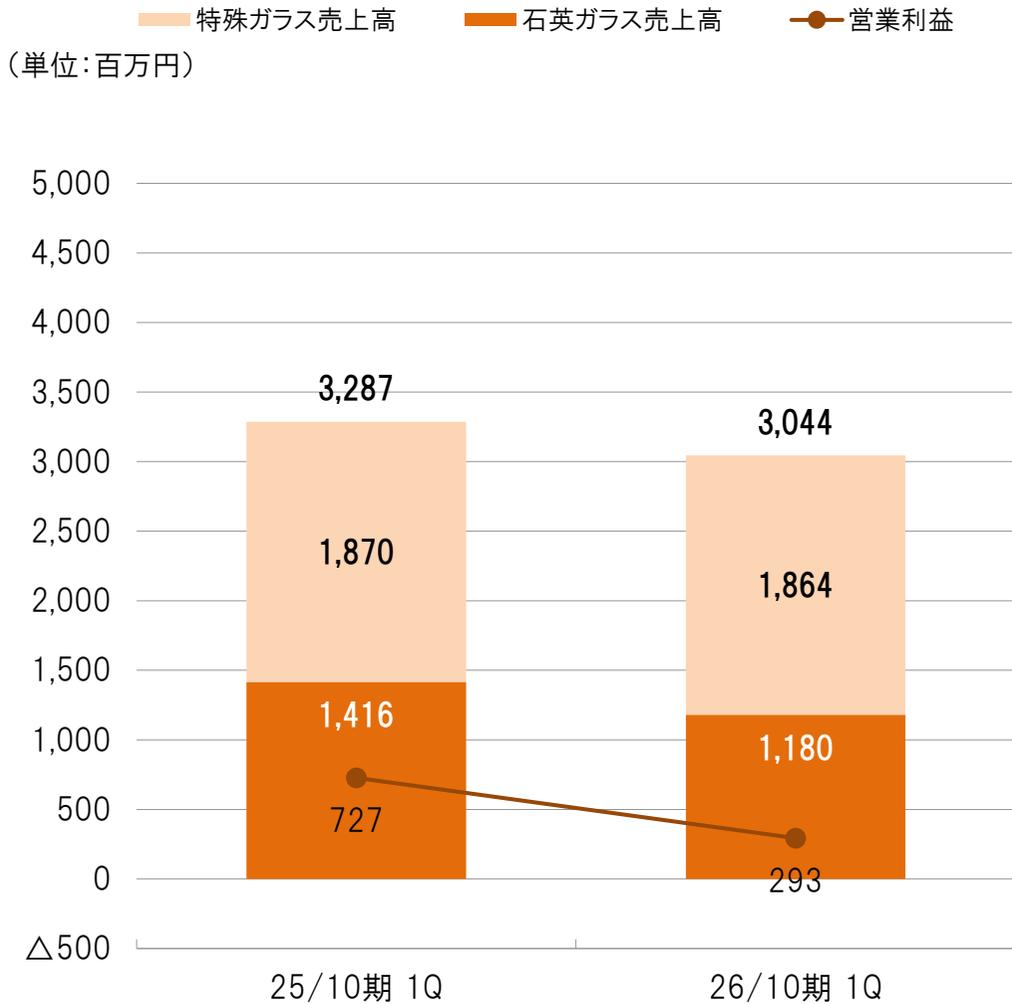
【コスト増減、製品ミックス】+149

- 原材料コストが増加したものの、高単価な川下製品を中心に売上が増加したことや、収益基盤の強化に向けた価格改定を実施したことで改善

【販管費】△13

- 主に人件費の増加影響

1Q対比

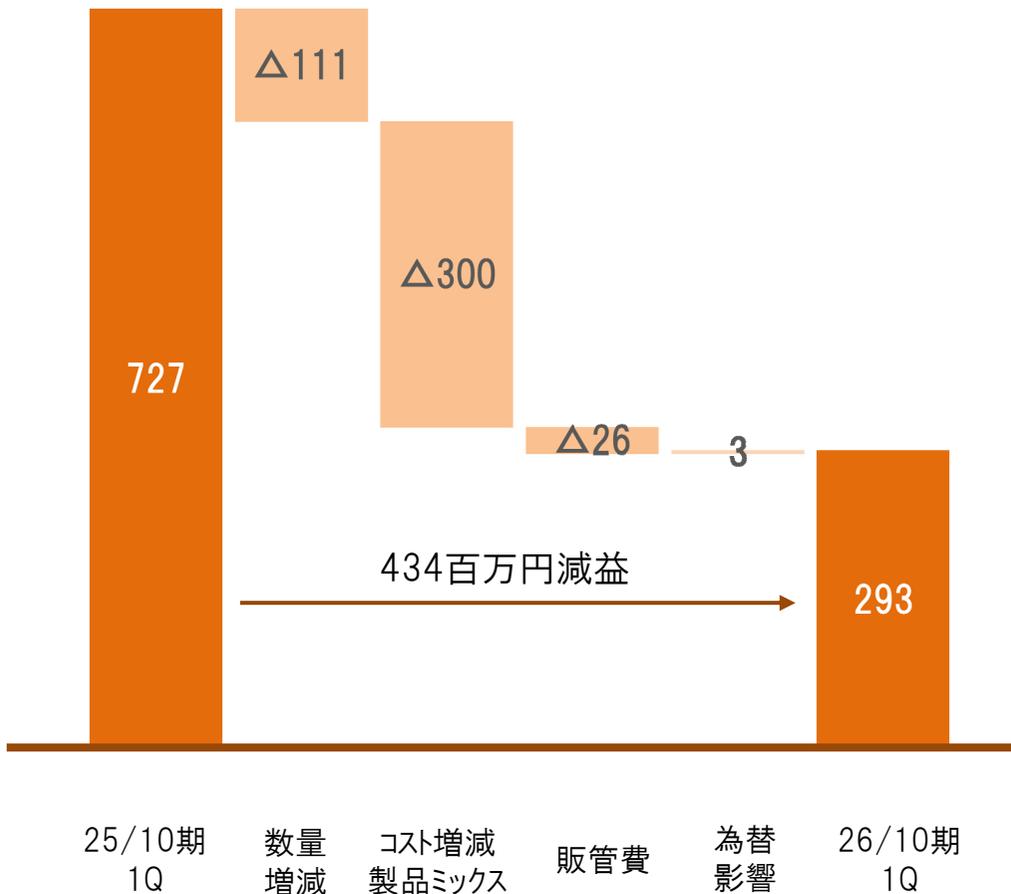


業績のポイント

- 売上高は3,044百万円
(前年同期比7.4%減)
- 営業利益は293百万円
(同59.6%減)
- 特殊ガラスは、AIサーバー向けプリント基板へ使用される低誘電ガラスの売上が増加したものの、半導体露光装置向け製品の在庫調整が継続していることから売上が減少
- 石英ガラスは、FPD露光装置向け製品の売上が減少

営業損益増減要因

(単位:百万円)



業績のポイント

【数量増減】△111

- 石英ガラスの売上が減少したことから前期比で悪化

【コスト増減、製品ミックス】△300

- 半導体露光装置向け製品の在庫調整の影響による生産設備の稼働率低下、製品ミックスの変化により前期比で悪化

【販管費】△26

- 主に人件費の増加影響

2026年10月期 業績見通し

26/10期業績予想修正まとめ

上期

(単位:百万円、%)

	期首予想 (25/12/11)	修正予想 (26/03/13)	増減額
売上高	14,100	14,400	300
光事業	7,600	8,200	600
光学プレス品	6,300	6,900	600
光学ブロック品	1,300	1,300	0
エレクトロニクス事業	6,500	6,200	△300
特殊ガラス	3,900	3,800	△100
石英ガラス	2,600	2,400	△200
営業利益	300	600	300
光事業	△400	0	400
エレクトロニクス事業	700	600	△100
経常利益	500	800	300
純利益(親会社株主に帰属)	100	500	400
為替レート	期中平均	期中平均	
円/1USD	150.00	150.00	
円/1EUR	165.00	175.00	

通期

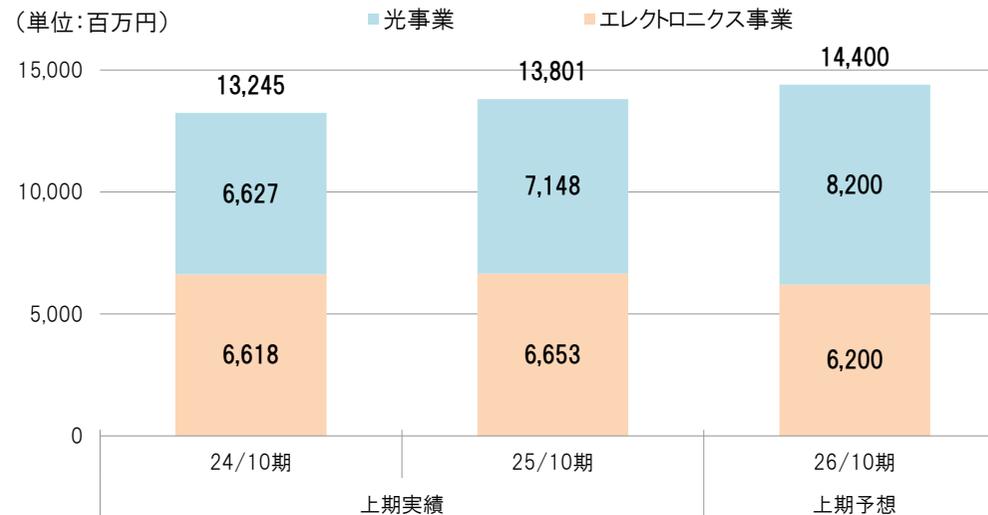
(単位:百万円、%)

	期首予想 (25/12/11)	修正予想 (26/03/13)	増減額
売上高	28,900	29,900	1,000
光事業	15,300	16,300	1,000
光学プレス品	12,700	13,600	900
光学ブロック品	2,600	2,700	100
エレクトロニクス事業	13,600	13,600	0
特殊ガラス	8,300	8,300	0
石英ガラス	5,300	5,300	0
営業利益	1,100	1,600	500
光事業	△700	△300	400
エレクトロニクス事業	1,800	1,900	100
経常利益	1,600	2,000	400
純利益(親会社株主に帰属)	900	1,200	300
為替レート	期中平均	期中平均	
円/1USD	150.00	150.00	
円/1EUR	165.00	175.00	

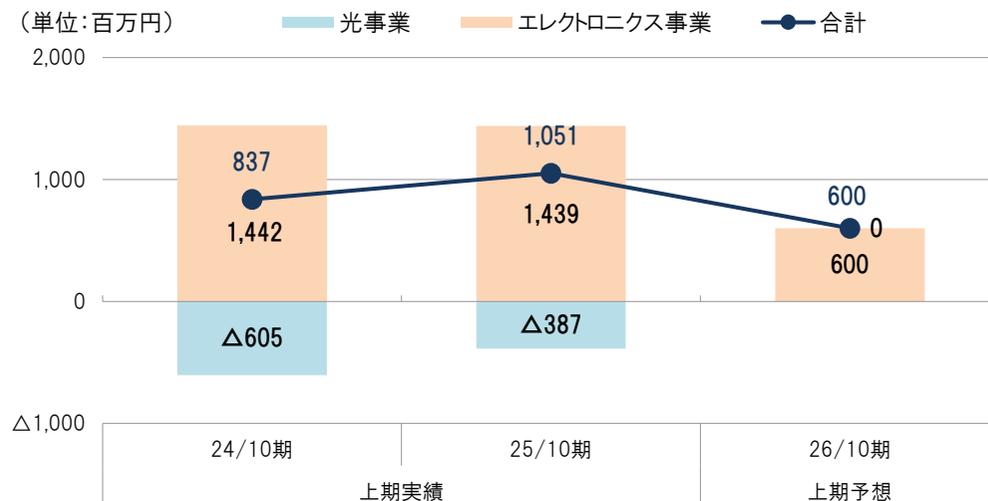
(単位:百万円、%)

	25/10期 上期	26/10期 上期予想	増減 増減率
売上高	13,801	14,400	598 4.3%
営業利益	1,051	600	△451
[営業利益率]	7.6%	4.2%	△42.9%
経常利益	1,291	800	△491
[経常利益率]	9.4%	5.6%	△38.1%
純利益 (親会社株主に帰属)	756	500	△256
[純利益率]	5.5%	3.5%	△33.9%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 151.57 161.36	期中平均 150.00 175.00	

売上高内訳



営業利益内訳



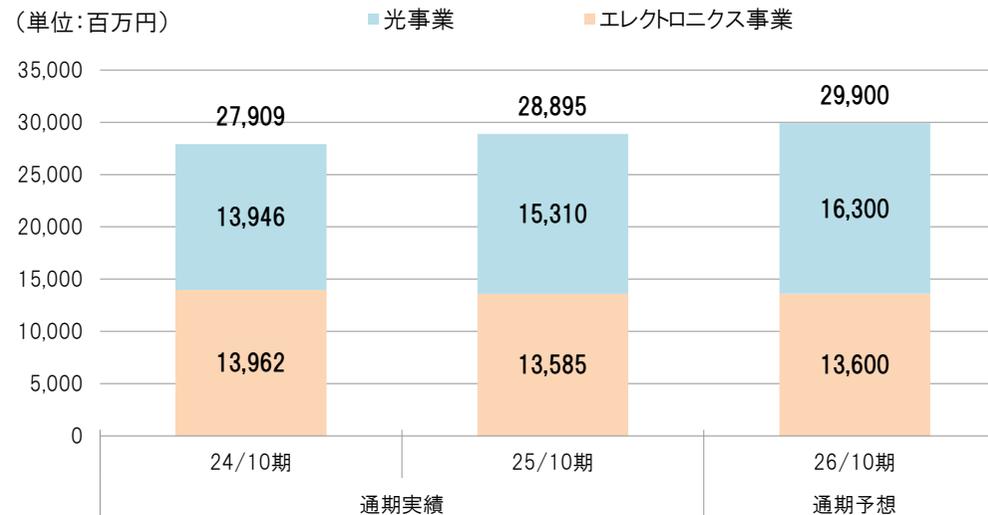
通期見通しサマリー

(単位:百万円、%)

	25/10期 通期	26/10期 通期予想	増減 増減率
売上高	28,895	29,900	1,004 3.5%
営業利益	1,794	1,600	△194
[営業利益率]	6.2%	5.4%	△10.8%
経常利益	2,289	2,000	△289
[経常利益率]	7.9%	6.7%	△12.7%
純利益 (親会社株主に帰属)	1,730	1,200	△530
[純利益率]	6.0%	4.0%	△30.7%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 149.34 166.06	期中平均 150.00 175.00	
年間配当金 (円)	25.0	25.0	

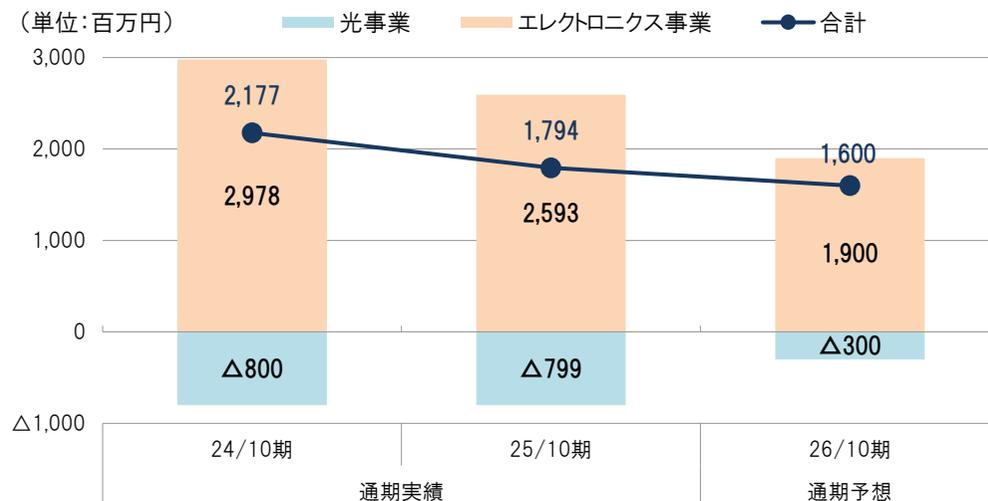
売上高内訳

(単位:百万円)

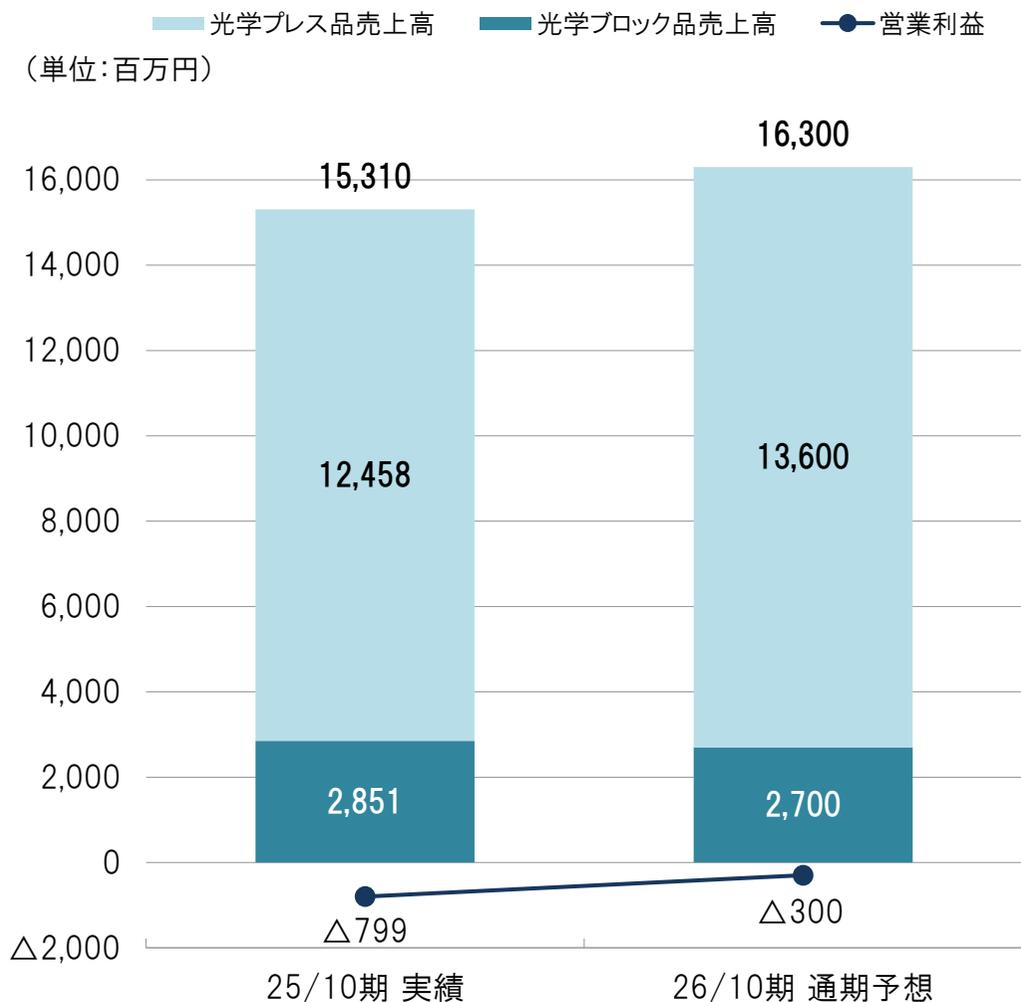


営業利益内訳

(単位:百万円)



通期対比



見通しのポイント

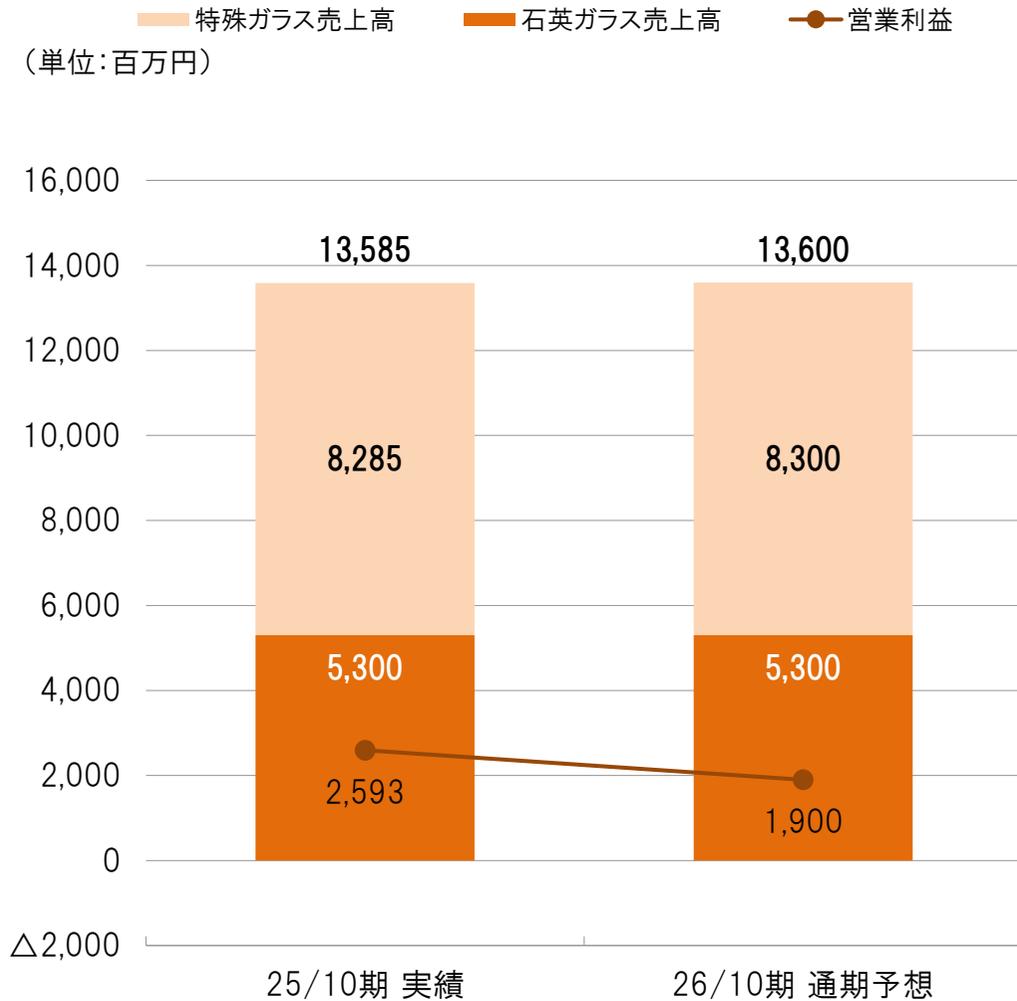
【売上高】

- 前期比6.5%の増収見込み
- 光学プレス品はデジタルカメラ向け製品で高単価な川下製品を中心に需要が堅調に推移する見込み

【営業利益】

- 原材料コストが増加する見込み
- 光学ガラス生産拠点の再編による生産性向上と製品の価格改定により、原価低減と適正利益の確保に向けた活動を推進

通期対比



見通しのポイント

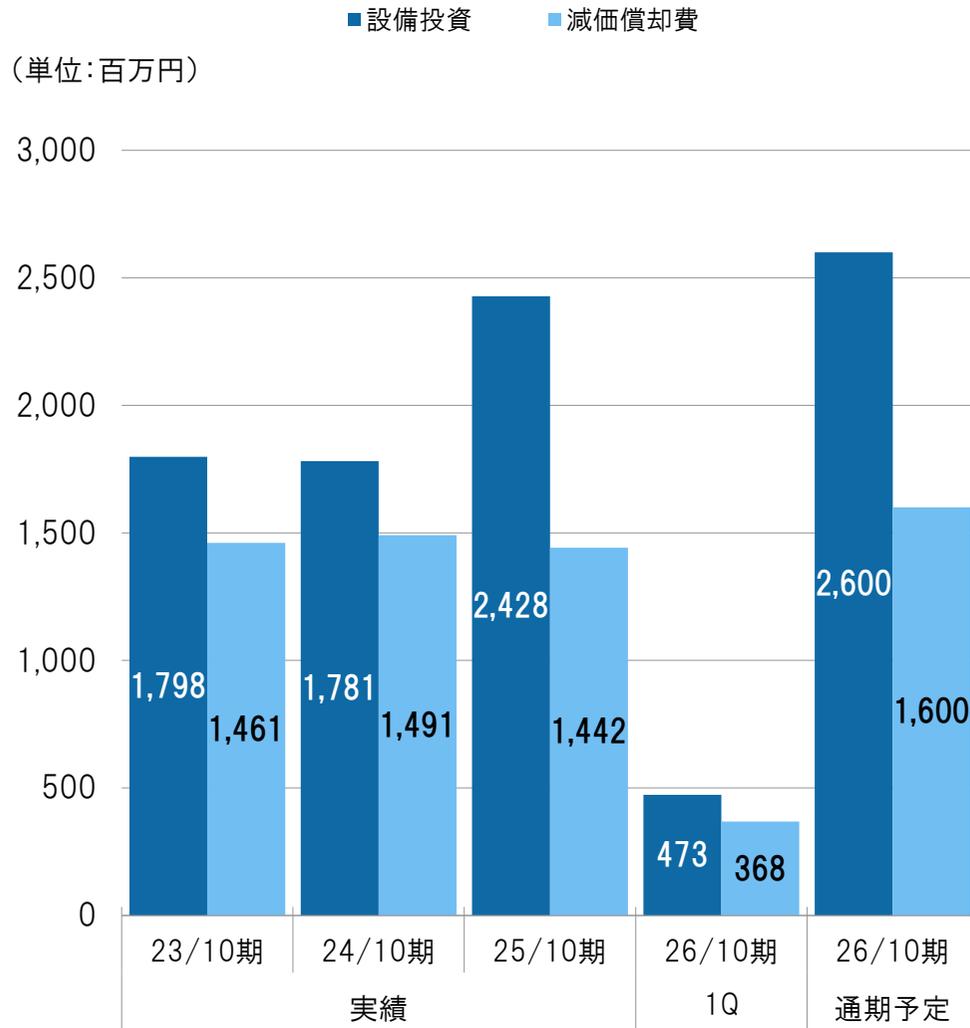
【売上高】

- 前期比0.1%の増収見込み
- 半導体露光装置向け製品は26/10期の下期から在庫調整が徐々に解消する見込み
- 低誘電ガラスは、26/10期の下期から顧客の需要に見合った販売を開始する予定

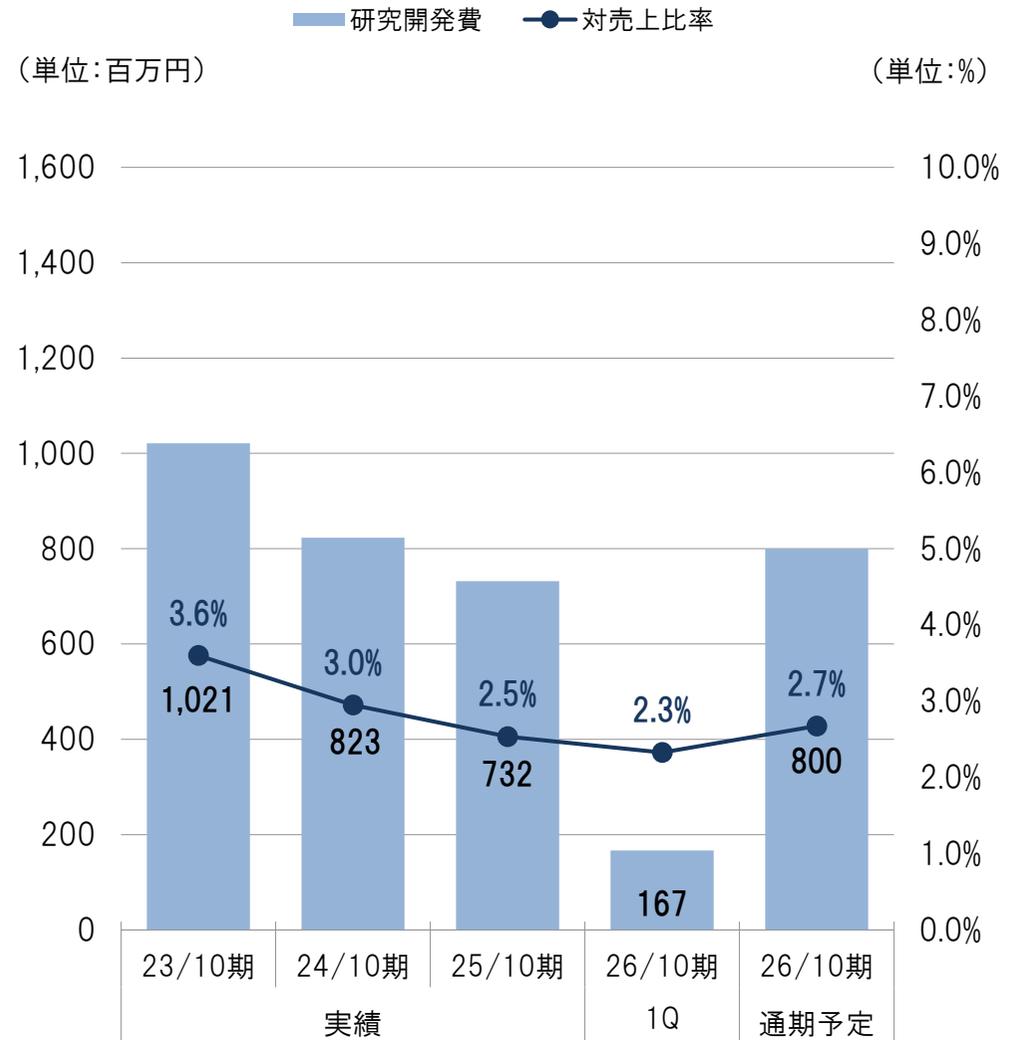
【営業利益】

- 前期比26.7%の減益見込み
- 半導体露光装置向け製品の在庫調整による製品ミックス変化の影響を受ける見込み
- 低誘電ガラスの生産設備投資行うことから25/10期の業績を一時的に下回る見込み

設備投資、減価償却費

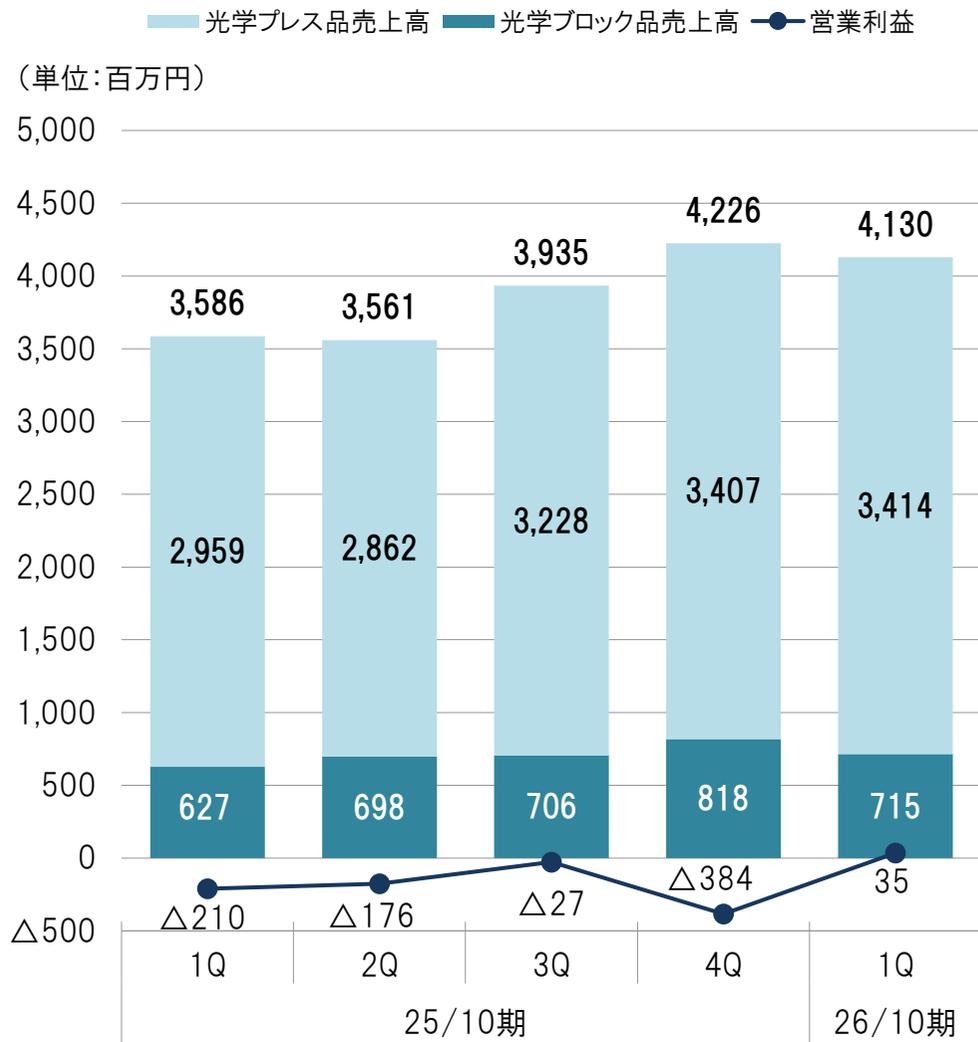


研究開発費

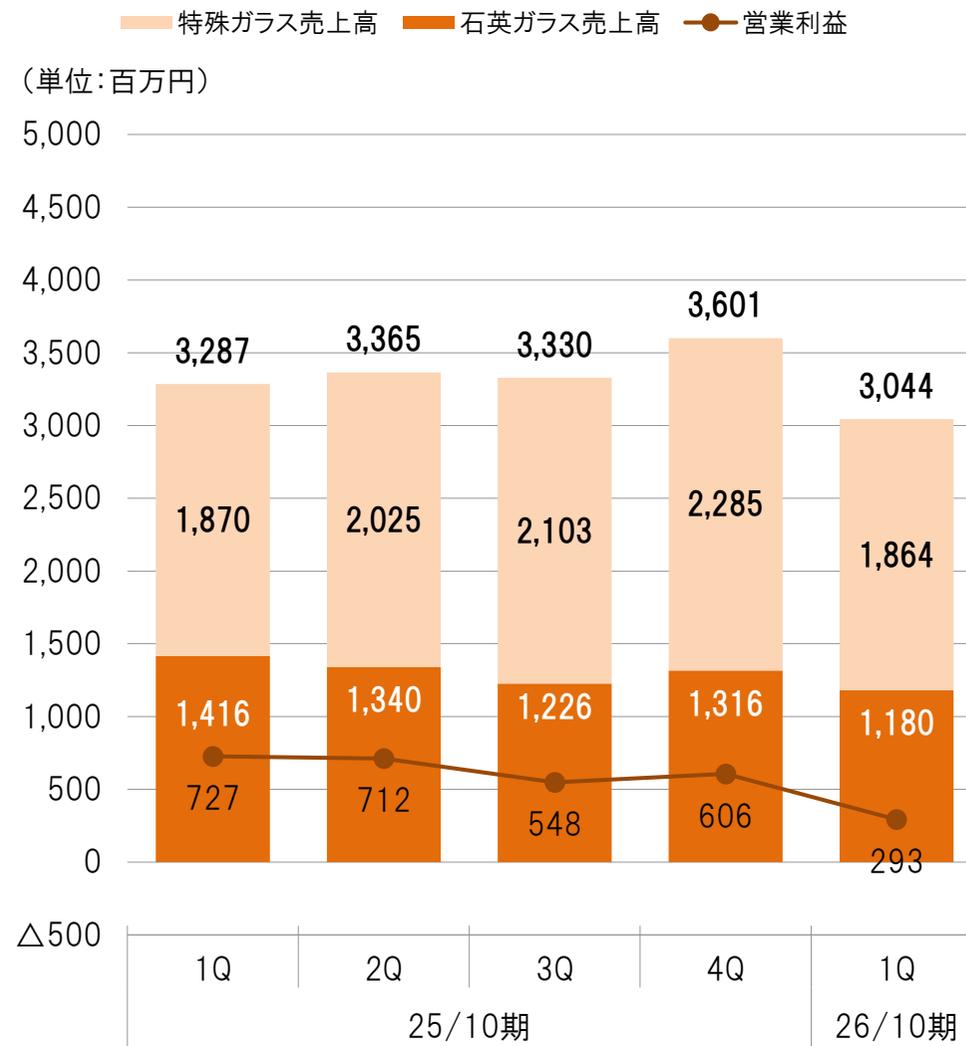


Appendix(参考資料)

光事業



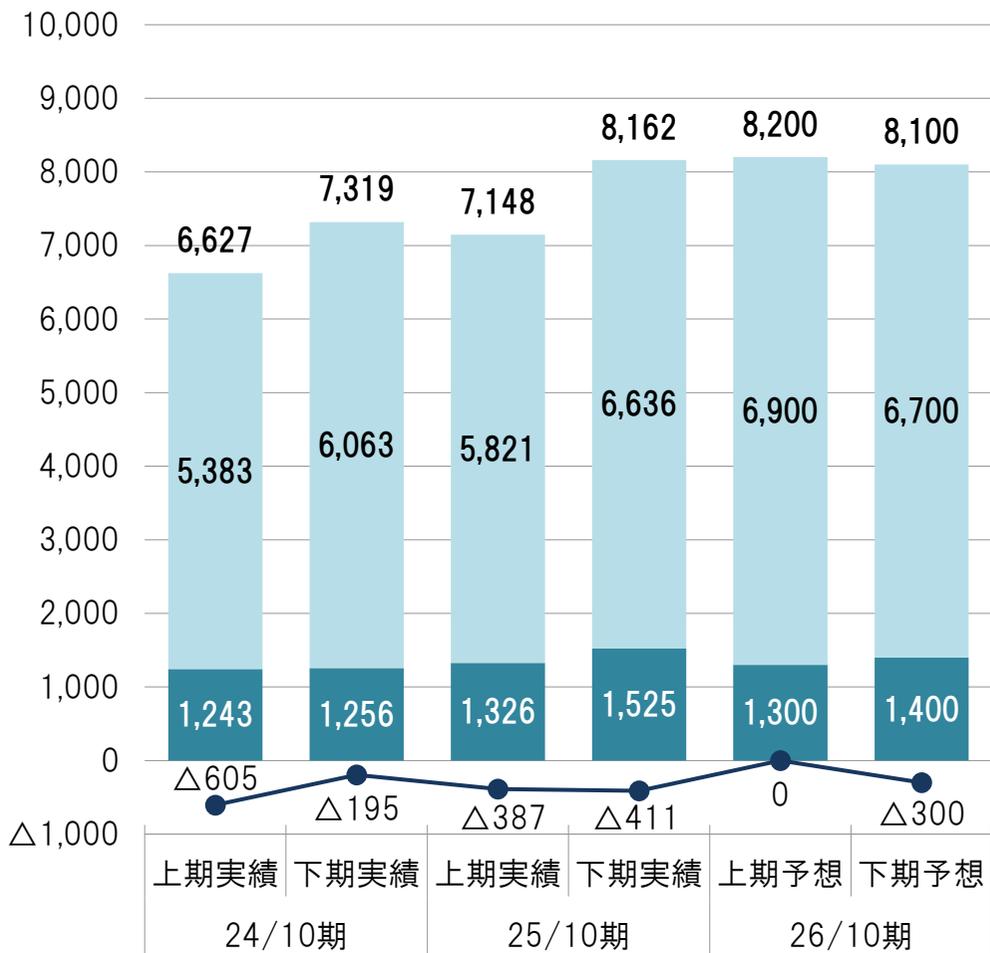
エレクトロニクス事業



光事業

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

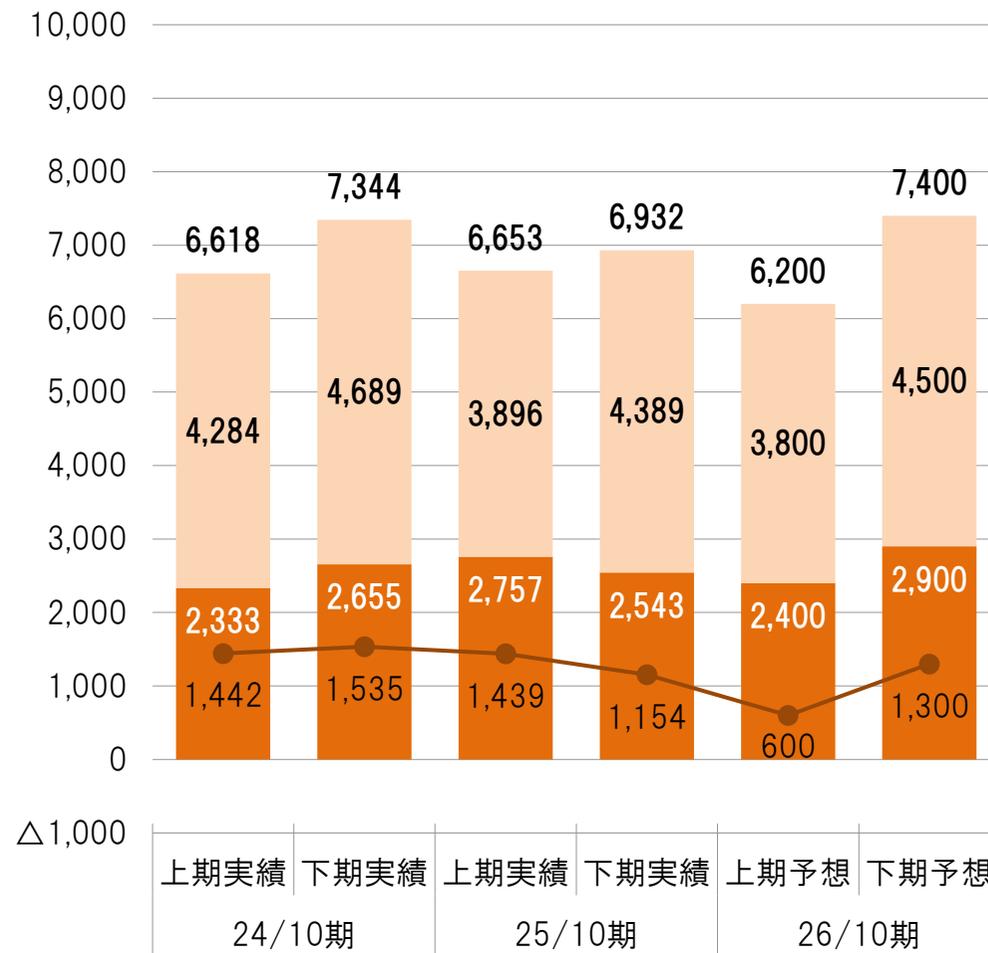
(単位:百万円)



エレクトロニクス事業

特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

(単位:百万円)



商 号：株式会社オハラ（OHARA INC.）
 所 在 地：神奈川県相模原市中央区小山1-15-30
 創 立：1935年(昭和10年)10月1日
 資 本 金：58億5千5百万円
 事 業 内 容：光及びエレクトロニクス事業機器向けガラス素材の製造、販売
 従 業 員：連結1,421名(単体468名) (2025年10月31日時点)
 発行済株式総数：25,450,000株
 株 主 数：10,739名 (2025年10月31日時点)



代表取締役社長執行役員
齋藤弘和

役員一覧

役名	氏名	職名
代表取締役社長執行役員	齋藤 弘和	経営全般
取締役専務執行役員	中島 隆	コーポレート統轄
取締役専務執行役員	後藤 直雪	生産・技術統轄
取締役常務執行役員	鈴木 雅智	事業統轄兼事業推進センター長
取締役(社外)	市村 誠	
取締役(社外)	戸倉 剛	
取締役(社外)	軒名 彰	
取締役(社外)	牧野 友香子	
常勤監査役	原田 洋宏	
監査役(社外)	米山 拓	
監査役(社外)	浅田 稔	
監査役(社外)	飯塚 良成	

大株主

(2025年10月31日時点)

	株主名	持株数 (千株)	持株比率
1	セイコーグループ(株)	4,702	19.3%
2	キヤノン(株)	4,694	19.3%
3	京橋起業(株)	4,688	19.2%
4	三光起業(株)	1,651	6.8%
5	日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	1,205	4.9%
6	(株)トプコン	673	2.8%
7	セイコーインスツル(株)	610	2.5%
8	オリンパス(株)	400	1.6%
9	JP MORGAN CHASE BANK 385781	130	0.5%
10	オハラ従業員持株会	119	0.5%

※持株比率は、自己株式1,085千株(株式給付信託保有分含む)を控除して計算

Copyright© 2026 OHARA INC. All Rights Reserved.

中国
小原光学(中山)有限公司 華光小原光学材料(襄陽)有限公司



日本
(株)オハラ



(株)オハラ・クオーツ



(株)オーピーシー



米国
Ohara Corporation



ドイツ
OHARA GmbH



香港
小原光学(香港)有限公司



マレーシア
OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.



台湾
台湾小原光学股份有限公司 台湾小原光学材料股份有限公司



- 1935 10月：小原甚八が小原光学硝子製造所を創立、東京蒲田にて操業開始
- 1936 11月：光学ガラス熔解開始
- 1944 2月：組織変更をして株式会社小原光学硝子製造所を設立
- 1946 3月：本社を神奈川県相模原市に移転
- 1954 5月：白金坩堝熔解開始
- 1958 4月：ランタンガラス生産開始
- 1961 1月：連続熔解ストリップ方式生産開始
- 1962 10月：足柄光学株式会社の株式取得
- 1969 7月：オハラガラス、アポロ11号に搭載
- 1975 8月：低屈折低分散ガラス(S-FPL51)生産開始
- 1981 8月：Ohara Optical Glass Inc.(米国)(現・Ohara Corporation)設立
- 1982 3月：オハラガラス、スペースシャトル・コロンビア号に搭載
- 1983 3月：ステッパー用ハイホモガラス($\Delta n_d \pm 0.5 \sim \pm 1.0 \times 10^{-6}$)量産開始
- 1984 3月：高エネルギー物理学研究所へチェレンコフガラス納入開始
- 1985 5月：株式会社オハラに商号を変更
- 1987 1月：中華民国台中県に光学プレス品の製造及び販売を目的として台湾小原光学股份有限公司を設立
- 3月：紫外線(365nm)高透過ガラス生産開始
- 5月：有限会社オーピーシー(現・株式会社オーピーシー)設立
- 1988 8月：結晶化ガラス生産開始
- 1990 1月：OHARA GmbH(ドイツ)設立
- 1991 9月：環境対策光学ガラス生産開始
- 11月：OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.(マレーシア)設立
- 1993 3月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)生産開始
- 1994 11月：ハードディスク基板用ガラスセラミックス生産開始
- 1997 3月：光学ガラス推奨112種類(当時)のすべてをエコ化
- 1998 4月：ISO9001認証取得
- 1999 1月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラSCに搭載
- 2000 1月：低光弾性ガラス生産開始
- 4月：ISO14001認証取得
- 10月：真空紫外域屈折率測定受託サービス開始
- 2002 5月：小原光学(香港)有限公司設立
- 6月：大規模連続熔解開始
- 12月：小原光学(中山)有限公司(中国)設立
- 2005 10月：東京証券取引所第一部へ株式上場
- 2006 11月：ファイバー用エコガラス(内視鏡用など)生産開始
- 2007 2月：低蛍光ガラス(顕微鏡用など)生産開始
- 9月：オハラガラス、月周回衛星「かぐや(SELENE)」に搭載
- 2008 7月：株式会社オハラ・クオーツを連結子会社化
- 2011 3月：華光小原光学材料(襄陽)有限公司(中国)設立(合併)
- 2012 3月：台湾小原光学材料股份有限公司設立
- 8月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラHSCに搭載
- 2013 5月：リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)発売開始
- 2014 2月：ハードディスク用ガラス基板事業からの撤退
- 3月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、TMT天体望遠鏡に採用
- 2015 3月：非球面ガラスモールドレンズ量産供給開始
- 12月：耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)発売開始
- 2016 8月：リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)を使用した全固体電池試作品が-30℃で駆動
- 2017 5月：世界初、車載カメラ専用光学ガラス材発売開始
- 12月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、超低高度衛星技術試験機「つばめ(SLATS)」に採用
- 2018 6月：NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発(第2期)へ参加
- 8月：非球面ガラスモールドレンズ新工場稼働開始
- 2019 1月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、キヤノン電子の超小型人工衛星初号機に採用
- 2月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、国内最大の望遠鏡「せいめい」に採用
- 3月：足柄光学株式会社を解散
- 2020 3月：オハラの固体添加材「LICGC™ PW-01」によりリチウムイオン電池の寿命が4倍長持ち
- 2022 3月：耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス『NANOCERAM™』が超小型光学衛星KITSUNEのカメラプロテクターとして採用
- 2024 1月：当社光学ガラスが小型月着陸実証機「SLIM」に採用
- 2025 2月：「LICGC™ SP-01」が産業技術総合研究所の湿度変動電池に使用

主要製品

製品カテゴリ

光学プレス品

レンズブランク



研磨レンズ



ガラスモールドレンズ
(GMO)



光学ブロック品



売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定

光事業	25/10期 1Q	26/10期 1Q
売上高(百万円)	3,586	4,130
交換レンズ(レンズ交換式カメラ)	60%	65%
プロジェクター	10%	5%
医療機器(内視鏡等)	10%	5%
車載カメラ	5%	5%
監視カメラ	5%	10%
その他	10%	10%
合計	100%	100%

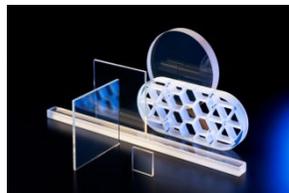
※光学ガラスを納品形態により分類。組成の種類(硝種)は約150種類

主要製品

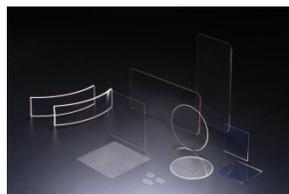
製品カテゴリ

特殊ガラス

極低膨張ガラスセラミックス
クリアセラム™-Z



耐衝撃・高硬度
クリアガラスセラミックス
ナノセラム™



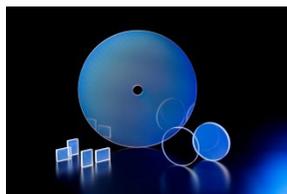
リチウムイオン伝導性
ガラスセラミックス
LICGC™



i線用高均質性
光学ガラス



光通信機器向け
ガラス素材
WMS™-15



石英ガラス



売上高の用途別比率

(単位:%) ※当社想定

エレクトロニクス事業	25/10期 1Q	26/10期 1Q
売上高(百万円)	3,287	3,044
半導体露光装置(レンズ、構造部材)	35%	25%
FPD露光装置(レンズ、ミラー材)	10%	5%
半導体フォトマスク	5%	10%
光通信機器(DWDMフィルター材)	5%	5%
プロジェクター(TFT基板材)	5%	—%
宇宙・天文	—	5%
低誘電ガラス	—	5%
その他	40%	45%
合計	100%	100%

経営理念

オハラグループは、常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

コーポレート・メッセージ

ブランドスローガン

ひかる素材で、未来をひらく

オハラが願う
未来・社会の姿

安心で快適な生活。
創造と希望にあふれた社会。
健やかな地球。

オハラの
使命

いつの時代も新たな素材の可能性を追求し、
多様なパートナーとともにかたちにするので、
「生活・文化の向上」「フロンティア開拓」「地球環境の改善」に貢献する。

オハラの提供価値

ひかる素材で、お客様の「できる」につなげる。

価値観・姿勢

真摯に向き合う
妥協なきものづくり
挑戦のグッドサイクルを回す
All OHARAでいく
互いに認め合い、成長しよう

ひかる素材で、未来をひらく

OHARA

- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。